

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第59回】

大久保小放課後子ども教室  
～輝きながら、つながりを深める子どもたち～

長崎県佐世保市立大久保小学校長 久家 三喜男

「今日、『ほうかご』あるよね！」「今日はクッキー作りなんだよ、楽しみー！」毎週木曜日の休み時間、決まって子どもたちがこんなことを言ってきます。人と関わる喜び、未知の体験にチャレンジする楽しさを十分に知っているのです。

平成20年9月から20名で開始した本教室も4年目を迎え、参加児童も今では40名近くとなり、会場としている図書室が狭く感じるほど活気にあふれています。子どもたちに豊かな体験をさせようと、ものづくり・スポーツ・調理・茶道等、年間18回もの体験活動の場が設定され、子どもたちは、礼儀作法・人との関わり方・思いやりを持つことの大切さ・ルールを守ること・生活習慣など人としての基本を学び取っています。高学年が低学年の宿題を見てあげたりと昔ながらの異年齢同士のつながりが見られたり、担任も知らなかった子どもの新たな一面が発見できたりするのもこの放課後子ども教室です。子どもの可能性を引き出していると言っても過言ではないでしょう。それを支えているのが、12名のボランティアスタッフです。スタッフの皆さんは、愛情を持って子ども同士の関わりを見守り、時には厳しく指導し、子どもたちが安心できる居場所を作ってくださっています。ボランティア会議を定期的で開催する中で、課題を明確にし、解決のための工夫を重ねるなど、常に進化し主体的に活動していただいています。多様な講師を招聘し、学校だけでは実現しにくい「本物の」体験を実施していただいています。活動の様子を保護者に伝えるため、「大久保小放課後子ども教室便り」を発行しているほか、年間の最後には発表会を行っており、保護者とボランティアスタッフとの語らいの場も持つことができました。

「大久保小放課後子ども教室」は、子どもと子ども、地域と学校・家庭等、様々なつながりが深まる場所であり、子どもたちがつながりの中で輝く、なくてはならない場所となっているのです。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第195号に掲載）